



正しき道を

船橋中学校 校歌の三番にこめられた思い

4月9日、桜の花びらが舞う中、新入生346名を迎えて平成31年度がスタートしました。当日は、春爛漫の暖かい日差しに包まれて入学した1年生ですが、ここ数日は花冷えとなり、大きめの制服に首をすぼめながら登校する姿は微笑ましい限りです。

今回で73回目となった先日の入学式でも、2・3年生が校歌を歌って新入生を迎えましたが、2、3年生にもぜひ伝えたいと思い、今回は、入学式の式辞の中で本校の校歌の最後の「**正しき道をいざ行かん**」という言葉について、全校生徒へ向けましてお話ししました。

創立以来、70年以上の長きにわたって船橋中学校の生徒は校歌を歌いながら、この言葉を胸に中学時代を過ごしてきました。特に校歌の三番の最後の部分については、どの時代の生徒も覚えているのではではないでしょうか。

船橋中学校の校歌は三番までありますが、一番、二番の歌詞と三番の歌詞は全く違います。あらためて読んでみていただくとわかりますが、一番、二番の歌詞は学校そのものを客観的に見た歌詞ですが、三番はそこで育つ中学生そのものを歌っています。しかも、最後の言葉は「**いざ行かん**」という主体的で強い意志を示す言葉で締めくくられています。

中学生は日々迷いながら、悩み、葛藤する中で成長していきます。また、成長するにつれて、「こうありたい」という自分の姿を思い描きながらも、弱い自分に負けそうになって苛立つことも多くなりがちです。安易な方へ流されそうになったり、周りの雰囲気や妥協してしまいそうになったりすることもあります。それはおそらく、いつの時代の中学生も変わる事のない姿だったのでしょう。

だからこそ、校歌の三番には、船橋中学校の生徒への強いメッセージがこめられたのだと思います。特に「**正しき道をいざ行かん**」という部分にはその「思い」が強くこめられているように感じます。「いざ」と言う言葉には、生徒へのエール〈応援〉の気持ちもこめられているのでしょう。入学式の式辞では、これから始まる中学校生活で判断に迷った時には、この言葉を思い出してほしい、そして、「これが正しい」と胸を張って言える道を選んでほしい、弱い自分に負けそうなときも、安易な方向へ流されそうなときも、周りの雰囲気や妥協してしまいそうなときも、どんな時にも勇気を持って自分が正しいと思った道を選ぶこと…その積み重ねこそが、中学校三年間で必ず自分自身を成長させてくれる、と話しました。

昨年度から生徒会を中心に生徒達が口に続けた「より良い船橋中学校」とは、「より良い自分自身」を生み出すことでもあります。新入生はもちろん、全校生徒が切磋琢磨して、「より良い船橋中学校」をともに作っていきたいと思います。…「いざ、行かん！」

※校歌の歌詞は生徒全員が持っている生徒手帳に載っています。また、本校 HP で校歌と応援歌を聴くこともできます。この校長通信も HP 上でご覧になれますので、ぜひどうぞ。